

新着案内

NO. 3
2020年12月
伊丹西高校図書館



『半沢直樹 アルルカンと道化師』（池井戸 潤）
東京中央銀行大阪西支店の融資課長・半沢直樹のもとに、大手IT企業が業績低迷中の美術系出版社を買収したいという案件が持ち込まれる。半沢は大阪営業本部の強引な買収工作に抵抗するが、背後にひそむ秘密の存在に気づく。有名な絵に隠された「謎」を解いたとき、半沢がたどりついた驚愕の真実とは。

『滅びの前のジャングリラ』（凧良 ゆう）

1ヶ月後、小惑星が衝突し、地球は滅びる。学校でいじめを受ける友樹、人を殺したヤクザの信士、恋人から逃げ出した静香。そして。「人生をうまく生きられなかった」4人が最期の時までをどう過ごすのか。圧巻のラストに息を呑む。

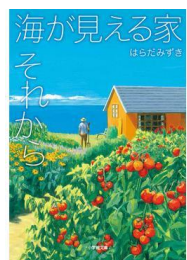


『一人称単数』（村上 春樹）

世界は流れていく。物語が光景をとどめる。表題作ほか「石のまくらに」「チャーリー・パーカー・プレイズ・ボサノヴァ」など8作を収録した短篇小説集。

『スター』（朝井 リョウ）

「どっちが先に有名監督になるか、勝負だな」新人の登竜門となる映画祭でグランプリを受賞した立原尚吾と大土井紘。ふたりは大学卒業後、名監督への弟子入りとYouTubeでの発信という真逆の道を選ぶ。受賞歴、再生回数、完成度、利益、受け手の反応作品の質や価値は何をもって測られるのか。



『海が見える家 それから』（はらだ みずき）

入社1ヶ月で会社を辞めた文哉が、急逝した父が遺した南房総の海が見える家で暮らし始めて、1年が経とうとしていた。そんなある日、元彼女から受け取ったメールには、「あなたは都会を捨て、田舎に逃げただけ」と綴られていた。

『Another 2001』（綾辻 行人）

1998年度の〈災厄〉から3年。夜見北中三年三組の一員となる生徒たちの中には、3年前の夏、見崎鳴と出会った少年・想の姿があった。今年特別な〈対策〉を講じる想たちだったが、ある出来事をきっかけに歯車が狂いはじめ、ついに惨劇の幕が開く！



『82年生まれ、キム・ジョン』（チョ ナムジュ著/斎藤 真理子訳）

【第41回今日の作家賞受賞作品】
ある日突然、自分の母親や友人の人格が憑依したかのようなキム・ジョン。誕生、学生時代、受験、就職、結婚、育児。彼女の人生を克明に振り返る中で、女性の人生に立ちはだかる困難と差別を描く。



『この本を盗む者は』（深緑 野分）

書物の蒐集家を曾祖父に持つ高校生の深冬は本が好きではない。蔵書が盗まれ、本の呪いが発動し、街は物語の世界に姿を変えていく。泥棒を捕まえない限り元に戻らないと知った深冬は、探偵が銃を手に陰謀に挑む話や、銀色の巨大な獣を巡る話など、様々な本の世界を冒険していく。



『始まりの木』（夏川 草介）

旅の準備をしたまえ。これからは民俗学の出番だ。長野、京都などを舞台に、生きること、学ぶことの意味を問う、木と森と、空と大地と、ヒトの心の物語。



『こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話』（渡辺 一史）

筋ジストロフィー患者の鹿野靖明、34歳。一人では寝返りも打てないけれど、自由に生きたい！自ら集めたボランティアに支えられての自宅暮らしは、命がけのわがまま放題。実話から生まれた映画のノベライズ。



『この気持ちもいつか忘れる』（住野 よる）

平凡な日々を飽き飽きとして生きる高校生のカヤ。16歳の誕生日を迎えた直後、深夜のバス停で爪と目しか見えない異世界の少女に出会う。2人は互いの世界の不思議なシンクロに気づく。

『劇場版鬼滅の刃 無限列車編ノベライズ』（吾峠 呼世晴）

次なる任務の地、〈無限列車〉に到着した炭治郎たち。一行は、鬼殺隊最強の剣士である〈柱〉のひとり、炎柱の煉獄杏寿郎と合流し、〈無限列車〉の中で鬼に立ち向かう。



『夜に駆ける YOASOBI小説集』（星野 舞夜）

「小説を音楽にするユニット」YOASOBIの恋愛ソングの原作小説集。Ayase×ikuraのインタビューも掲載。ikuraの朗読動画を視聴できるQRコード付き。

『オートリバス』（高崎 卓馬）

僕らの前に現れた16歳の少女、小泉今日子。女神の存在が、うだつが上がらない毎日を一新した。アイドルの「親衛隊」という居場所で、少年たちが手に入れたもの、そして失ったものとは？純度100%の青春小説。



『丸の内就職したら、幽霊物件担当でした。8』（竹村 優希）

「第六リサーチ」の若手社員・澁の仕事は幽霊物件の調査。本社の依頼で海辺の民宿に向かった一行は、泊まり込みで調査をすることに。チーム唯一の女子として一人部屋を与えられた澁を訪ねてきた恐ろしい存在とは。

『ちはやふる 45』（末次 由紀）
『弱虫ペダル 69』（渡辺 航）
『リアル 15』（井上 雄彦）

※ 皆さんからのリクエストを受け付けています！

新着案内

NO. 3
2020年12月
伊丹西高校図書館

～社会科学～



『「おもてなし」という残酷社会 過剰・感情労働とどう向き合うか』(榎本 博明)

行きすぎたサービス労働に対してうつ病、過労死が社会問題化している。過酷なストレス社会を生き抜くために、その社会的背景を理解し、対処法を考える。

『外国人労働者・移民・難民ってだれのこと?』(内藤 正典)

世界の動きとは反対に、外国人労働者に門戸を開いた日本政府。外国人労働者、移民、難民はどう違うのか。彼らとどう接したらいいのか。国境線を越えて人が動くことの影響を、わかりやすく解説する。



『未来の再建 暮らし・仕事・社会保障のグランドデザイン』(井出英策)

貧困リスクの増大、職場のブラック化、人間らしく生きる条件の喪失。何が問題で、どうすればいいのか? 日本社会の病巣をえぐり出し、そこで得た認識を踏まえて来るべき時代への道筋を示す、希望の書。

～自然科学～

『科学的とはどういう意味か』(森 博嗣)

数式に拒絶反応を示す「科学的無知」、理屈はいいから結論だけ言って! というような「思考停止」ほど危険なものはない。横行する非科学に騙されないための科学的思考法を、理系人気作家が指南する。



『世界を、こんなふうに見てごらん』(日高 敏隆)

子供の頃、芋虫と話がしたかった著者。どこにいくの、と話しかけたが芋虫は答えず、葉っぱを食べ始める。それでも見ていて気がつくことで、気持ちがわかると思った。これが、いきものを見つめる原点。不思議と驚きにみちた世界を「なぜ?」と問い続けた動物行動学者がやさしい言葉で綴る自然の魅力発見エッセイ。



『命の格差は止められるか ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業』(カワチ イチロー)

格差はストレスを生み、信頼や絆を損ね、寿命を縮める。格差の広がりとともに日本の長寿は危機に瀕している。所得、教育、労働、人間関係などあらゆる側面から格差を分析し、新たな長寿への可能性を探る。



～技術～

『グレタと立ち上がろう 気候変動の世界を救うための18章』(ヴァレンティナ・ジャンネツラ著/川野 太郎 訳)

気候変動を止めるために行動しよう。さまざまな環境問題を網羅し、気候変動を理解するための基礎的な考え方を、科学に基づいてわかりやすく説明する。国連気候行動サミットでのグレタさんの演説の全訳も掲載。



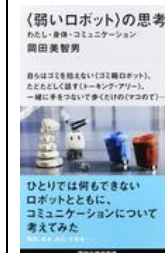
『大量廃棄社会 アパレルとコンビニの不都合な真実』(藤田さつき)

たくさん作って、無駄に捨てられる年間10億着の衣服や、大量の恵方巻き。「無駄」の裏には必ず「無理」が潜んでいる。大量廃棄社会の実情と解決策を、「SDGsプロジェクト」に取り組む朝日新聞記者2人がレポートする。



『〈弱いロボット〉の思考 わたし・身体・コミュニケーション』(岡田 美智男)

自分ではゴミを拾えないゴミ箱ロボット、たどたどしく話すロボット。人とロボットの持ちつ持たれつ関係とは? 不完全で、放っておけないロボットとともに、コミュニケーションの本質を考える。



～その他～



『おとなになるってどんなこと?』(吉本 ばなな)

勉強のこと、友だちのこと、死、そして生きること。若者たちが抱える、人生の根幹に関わる8つの問いに、吉本ばなながやさしく答えます。大人も考えさせられる珠玉の言葉が満載。

『いまいちばん美しい日本の絶景』(エムディエヌコーポレーション)

美幌峠(北海道)、銀山温泉(山形県)、千畳敷カール(長野県)、高田千本桜(奈良県)、水島コンビナート(岡山県)。定番スポットから撮影者の独自スポットまで、日本全国の絶景写真を収録する。



～キミも英語多読に挑戦しよう!～

★多読とは?

やさしすぎるくらいの本から始めて、読む楽しさを味わいながら、とにかくたくさん本を読むことで、英文が読めるようになります。ゆっくりでもいいので、すこしずつ始めていきましょう。



『The Magic of Music』(Genevieve Kocienda)

いつの時代も音楽は人、そして動物にとっても重要なものである。クジラの歌から Yo-Yo Ma の音楽まで、音楽が我々に与える様々な影響を探る。



『Poison: Medicine, Murder, and Mystery』(Caroline Shackleton, Nathan Paul Turner)

「毒」はフィクションや現実世界のミステリーとしてしばしば取り上げられる。日常口にする食べ物に潜む危険から過去に起きた精巧な殺人まで、毒に関する歴史に切り込む。